

事業報告

<研修名>

外部人材を活用した地域プログラム開発事業 「由布市とのプログラム協同実施」

<開催日時・場所>

令和2年1月26日(日) 13:00~16:30

会場 由布市庄内公民館

<参加人数>

各市町村からの参加者：18名(4市町村) / 体験活動に参加した小学生：24名

<研修趣旨>

地域学校協働活動を推進し、地域における子どもの学びの充実を図るため、民間企業・団体等を中心とした、多様な経験や技能をもつ外部人材を活用した、特色・魅力のある教育プログラムの開発・企画・提示や情報の提供を行うことにより、広域・多機能型「協育」ネットワークの拡大・充実と支援者のスキルアップに向けた支援を行う。

地域の企業や団体、高等学校を活用した、新たな体験プログラムの企画及び普及への契機となるよう働きかける。

<研修内容>

【第1部】 「未来に残そう！ゆいの『タカラモノ』体験」 プログラム見学

実演団体

- 「庄内神楽」体験：大分県立由布高等学校郷土芸能部
- 「箸作り」体験：箸屋一膳 西原 慎一郎 氏
- 「防災」体験：陸上自衛隊湯布院駐屯地

子どもたちは、地元の身近な団体が行うプログラムを2つ体験しました。

「庄内神楽」体験は、神楽で使用する「矢」を制作した後、衣装を着て神楽を舞いました。「箸作り」体験は、湯布院の桜の間伐材を利用した材料をナイフで削る、自分だけのオリジナルの箸作りを体験しました。「防災」体験は、人命救助の道具を触ったり、応急担架を作ったり、野外炊事車を見学したりして、自衛隊のもつ様々な防災についてのスキルを体験しました。

【第2部】 実演団体との協議・意見交換

県立図書館からの事業説明の後、各団体から、実演したプログラムの説明や他の実演可能なプログラムの紹介、今後市町村で実施する際の手続き等について話がありました。終了後は、各団体と市町村担当者との間で、個別に相談したり意見交換をしたり自市での実施に向けた依頼をしたりする様子が見られました

<当日の様子(写真)>

【開会行事】

【由布高校郷土芸能部による神楽実演】



【第1部】未来へ残そう! ゆ心の「タカラモノ」体験
▼「庄内神楽」体験 一由布高校郷土芸能部一



▼「箸作り」体験 一箸屋一膳一



▼「防災」体験 一陸上自衛隊湯布院駐屯地一



<参加者感想>

【市町村参加者】

- ◇庄内神楽、とても素敵だった。感動した。高校生の真剣な姿に体が震え、涙した。
- ◇由布高校の皆さん、大変素晴らしかった。この「タカラモノ」をぜひ未来へつないでいてもらいたいと思った。
- ◇箸作りは実際に体験させていただき、よい経験になった。
- ◇箸作りはその技術に感激した。子どもたちも真剣に取り組んでいた。
- ◇防災、とてもいいと思った。うちの市にもぜひ来ていただきたいと思った。
- ◇防災体験は実際に見て触れて体験してみることの大切さを学べた。
- ◇地域の仕事や伝統芸能に子どもたちが体験できる機会があるのはよいと思った。

【小学生】

- 由布高校郷土芸能部（「庄内神楽」体験）
 - ◇矢を作るのや踊るのが楽しかった。
 - ◇高校生は簡単にしていたけど、実際に踊ると難しかった。
 - ◇高校生になったらまたしたい。
- 箸屋一膳（「箸作り」体験）
 - ◇自分だけの箸ができたのでうれしかった。
 - ◇先生が細かく教えてくれてとてもわかりやすかった。
 - ◇作った箸、楽しみです。ありがとうございました。
- 湯布院駐屯地（「防災」体験）
 - ◇野外炊事車が600人分のごはんを作れるのがすごいと思った。
 - ◇どのようにして救助などを行っているのかがわかった。
 - ◇珍しい体験ができ、とても満足した。

【保護者】

- ◇高校生から教えてもらうのはありがたいし、お互いにとってよい体験になると思った。
- ◇箸作りは、小刀が使えなくても紙やすりでできるという安全面での配慮と体験のしやすさが安心できた。
- ◇自衛隊員さんの丁寧な説明で子どもでもわかりやすかった。
- ◇どの体験も子どもたちが熱心に聞き、体験できるよう、講師が工夫してくれており、大変よかった。